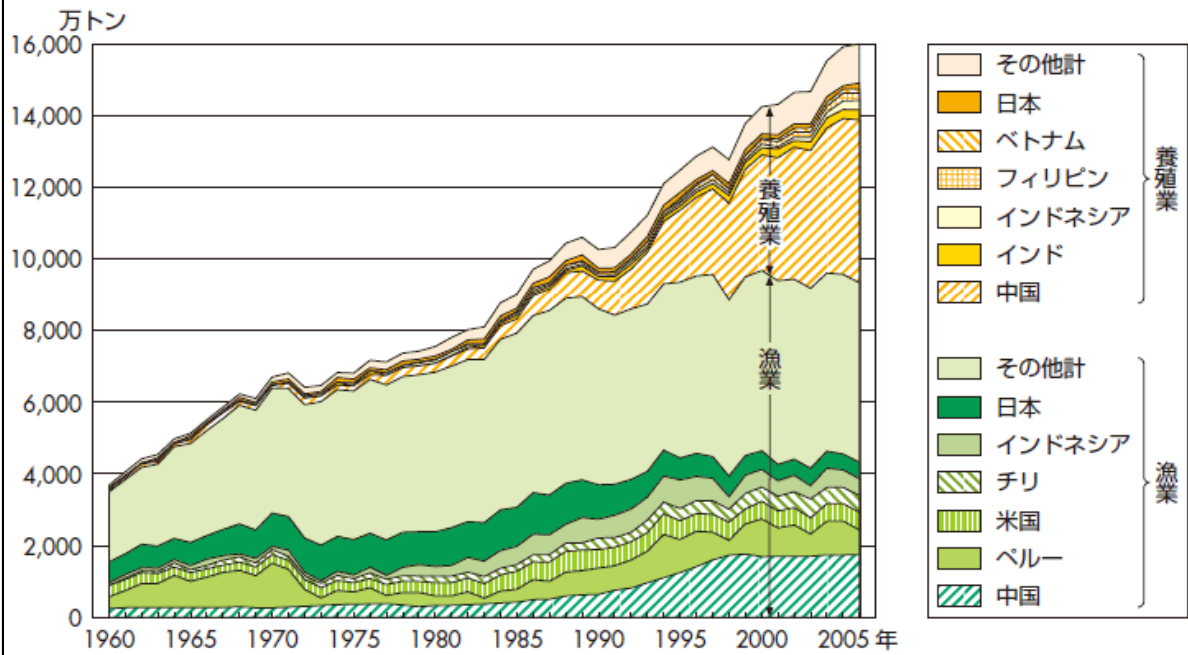


水産物チャート

Ⅲ-1 世界の漁業・養殖業生産量の推移



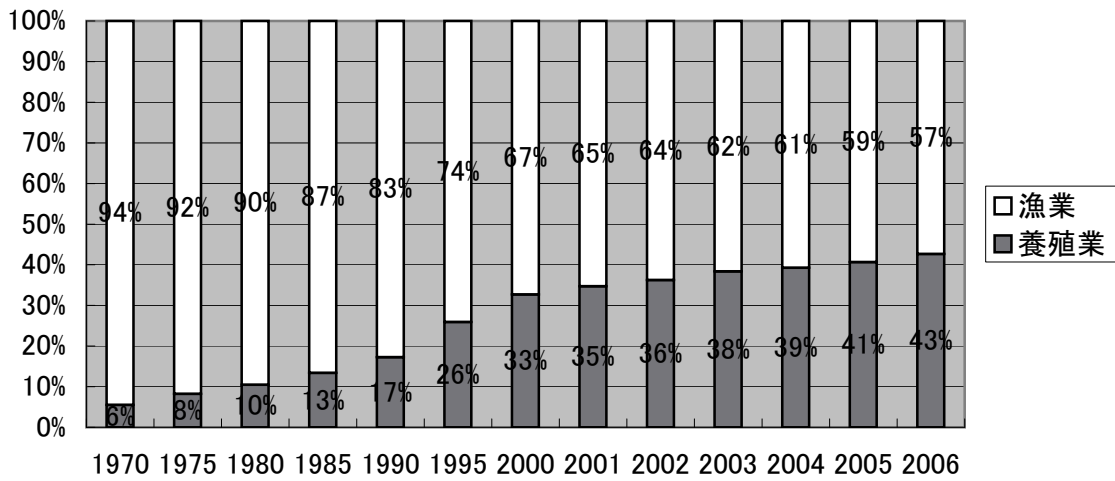
(単位：千トン)

	1960年	1970	1980	1990	2000	2005	2006	増減率 (%)	
								2006/1990	2006/2005
世界計	36,758	67,358	75,580	102,722	142,570	159,117	160,106	55.9	0.6
漁業	34,736	63,832	68,233	85,896	96,911	95,818	93,359	8.7	▲ 2.6
養殖業	2,022	3,526	7,347	16,827	45,658	63,299	66,747	296.7	5.4
中国	3,086	3,784	5,807	14,667	49,636	60,632	62,713	327.6	3.4
漁業	2,215	2,490	3,147	6,715	17,192	17,362	17,416	159.4	0.3
養殖業	871	1,294	2,660	7,953	32,444	43,271	45,297	469.6	4.7
ペルー	3,503	12,484	2,710	6,874	10,665	9,420	7,049	2.5	▲ 25.2
漁業	3,503	12,484	2,709	6,869	10,659	9,394	7,021	2.2	▲ 25.3
養殖業	…	0	1	5	7	26	28	443.3	8.6
インドネシア	762	1,257	1,878	3,243	5,120	6,828	6,989	115.5	2.4
漁業	681	1,148	1,653	2,644	4,126	4,704	4,769	80.4	1.4
養殖業	81	109	225	600	994	2,124	2,220	270.1	4.5
インド	1,161	1,759	2,445	3,880	5,669	6,658	6,983	80.0	4.9
漁業	1,117	1,637	2,080	2,863	3,726	3,691	3,855	34.7	4.4
養殖業	45	122	365	1,017	1,942	2,967	3,128	207.5	5.4
日本	6,193	9,315	11,122	11,052	6,384	5,765	5,735	▲ 48.1	▲ 0.5
漁業	5,892	8,717	10,036	9,682	5,092	4,511	4,511	▲ 53.4	0.0
養殖業	301	598	1,086	1,370	1,292	1,254	1,224	▲ 10.6	▲ 2.4

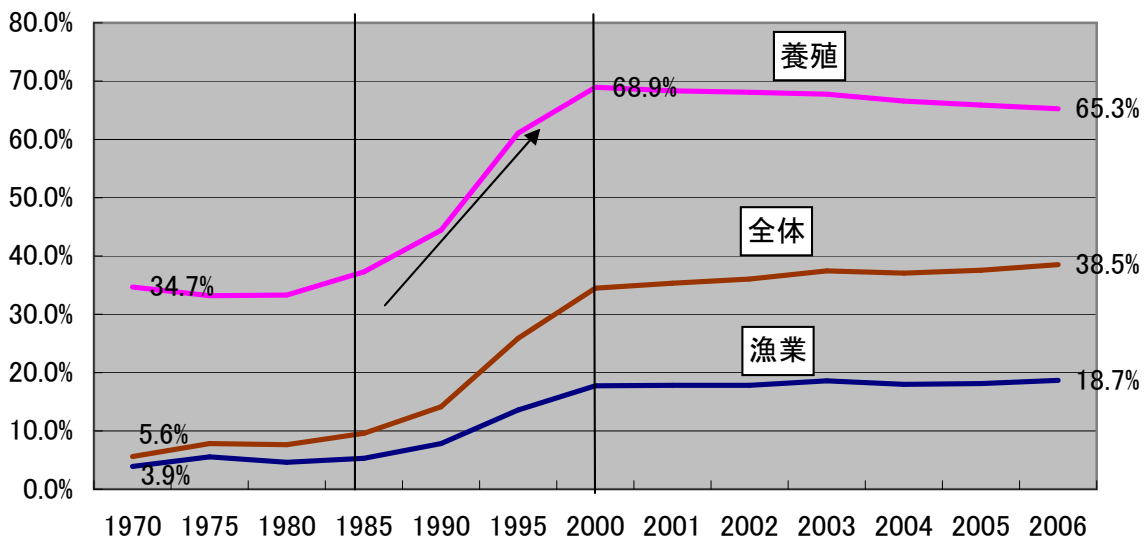
資料：FAO「Fishstat (Capture production 1950-2006)、(Aquaculture production 1950-2006) (日本以外の国)」及び農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報 (日本のみ)」を基に水産庁で作成
注：生産量は、魚介類と海藻類の合計である。

水産物チャート

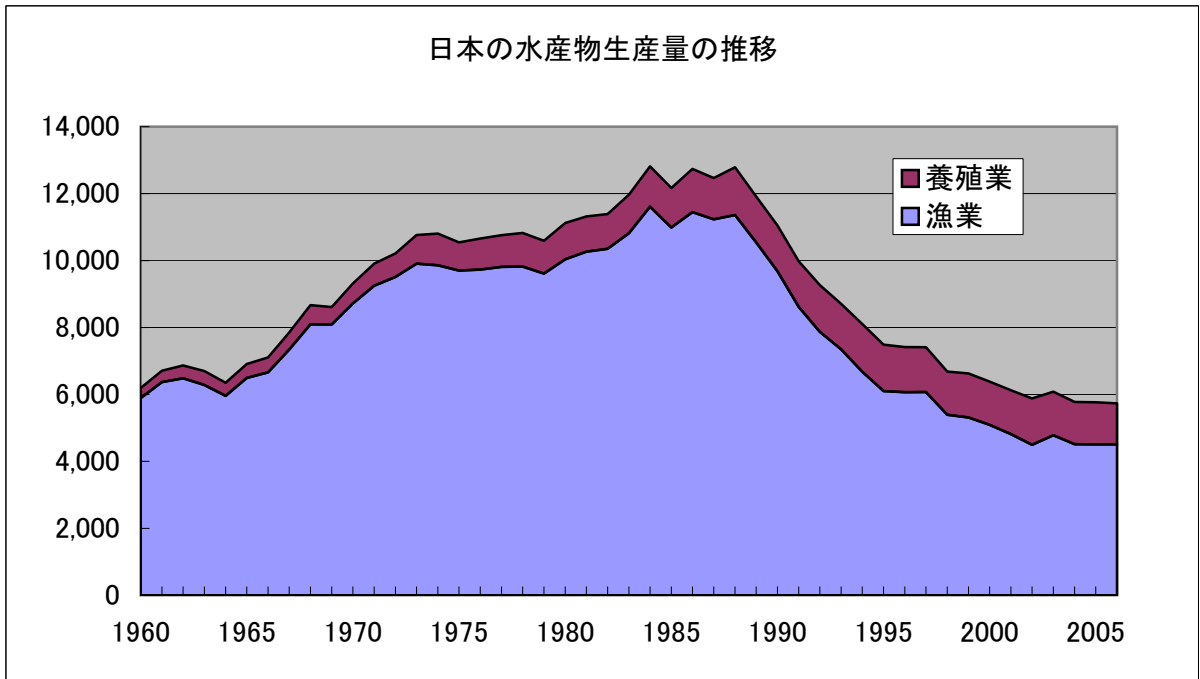
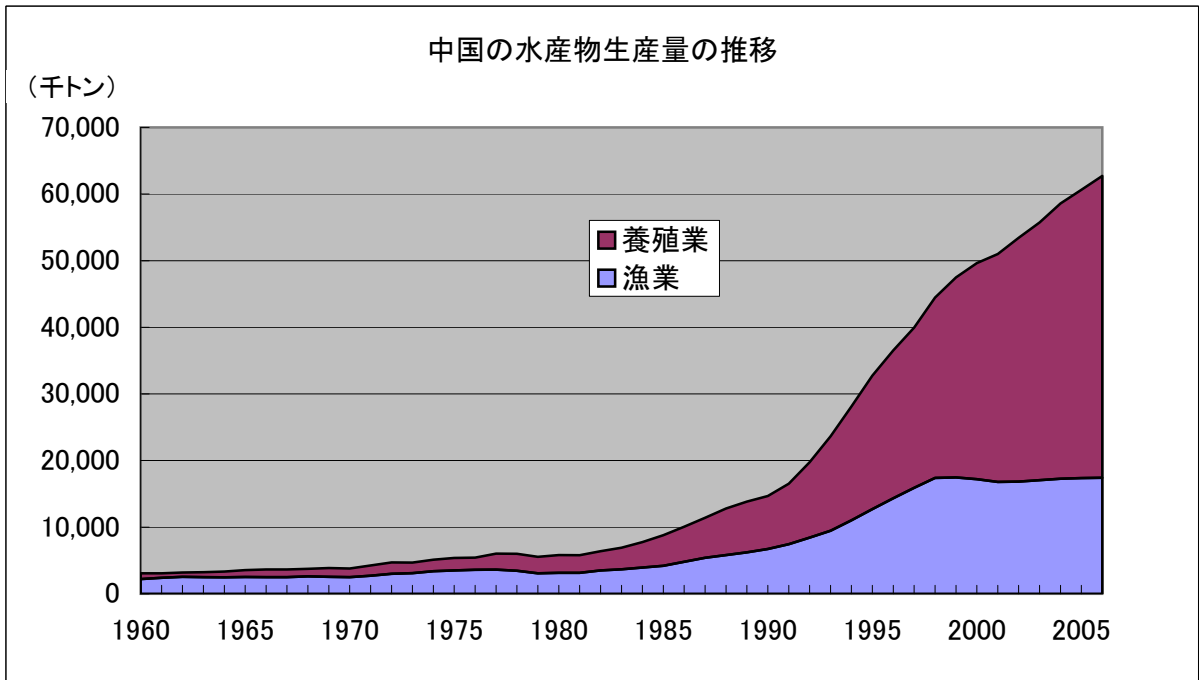
水産物生産量の漁業と養殖業の構成比の推移



中国の水産物生産量の世界シェアの推移

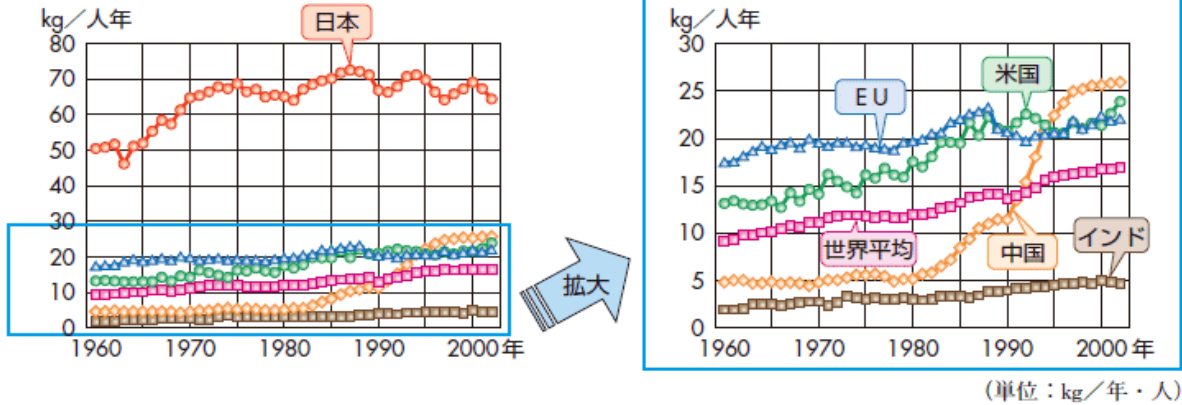


水産物チャート



水産物チャート

(2) 国民1人1年当たりの供給量の推移



	1961年	1970	1980	1990	2000	2003	増減率 (%)	
							2003/1961	2003/2000
世界平均	9.1	11.1	11.7	14.1	16.4	16.8	84.3	3.0
日本	50.4	61.3	65.5	71.2	67.2	64.3	27.6	▲ 4.3
中国	4.8	4.5	5.2	11.5	25.6	25.9	437.6	1.3
米国	13.1	14.7	15.8	20.9	21.6	23.8	81.4	10.1
EU	17.5	19.9	19.6	21.0	21.1	22.0	26.1	4.1
インド	1.9	2.8	3.2	3.8	4.6	4.8	154.5	4.5

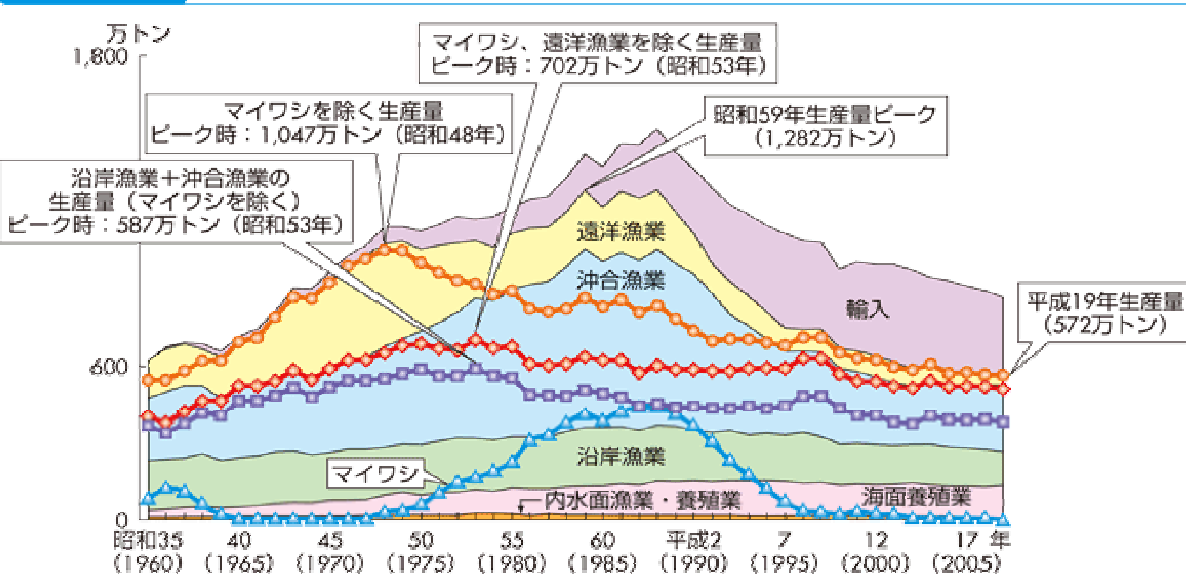
資料：FAO「Food balance sheets (1961-2003) (日本以外の国)」、農林水産省「食料需給表 (日本)」
 注：1990年以降集計方法が変更となったため、1989年以前と1990年以降とは連続しない。

(1) 国別漁獲量

	1960年	1970	1980	1990	2000	2005	2006	増減率 (%)	
								2006/1960	2006/2005
日本	381,365	278,944	361,340	277,518	275,474	232,664	216,021	▲ 43.4	▲ 7.2
台湾	8,200	95,664	109,618	191,111	238,410	238,264	178,971	2082.6	▲ 24.9
フィリピン	...	32,000	46,327	81,102	93,165	118,395	148,576	...	25.5
スペイン	37,920	39,264	79,149	161,627	150,103	145,946	144,435	280.9	▲ 1.0
メキシコ	3,500	7,000	21,118	118,114	105,572	144,387	139,898	3897.1	▲ 3.1
その他	193,153	300,557	436,745	712,818	1,057,262	1,118,335	1,030,909	433.7	▲ 7.8
合計	624,138	753,429	1,054,297	1,542,290	1,919,986	1,997,991	1,858,810	197.8	▲ 7.0

資料：FAO「Fishstat (Capture production 1950-2006) (日本を除く)」及び農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」(日本)
 注：マグロ類とは、クロマグロ、大西洋クロマグロ、ミナミマグロ、キハダ、メバチ、ビンナガの合計である。

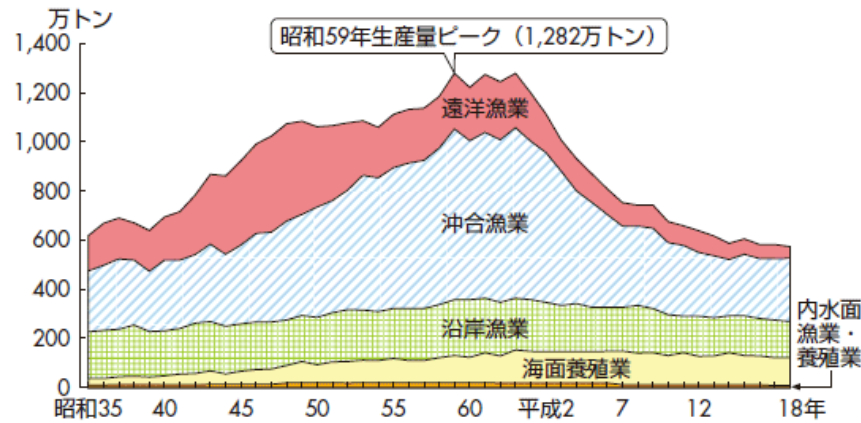
図1-2-1 我が国の生産量及び輸入量の推移



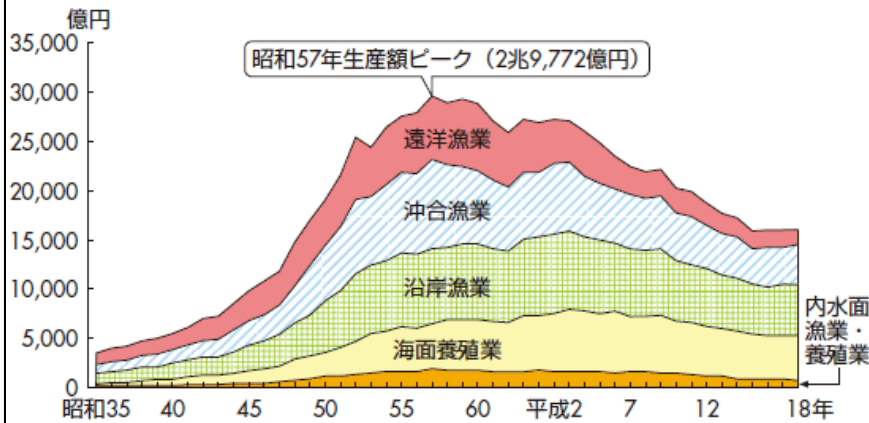
資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」、財務省「貿易統計」

水産物チャート

図Ⅱ-1-1 漁業・養殖業生産量・生産額の推移



		18年 (千トン)
生 産 量	合 計	5,735
	海 面	5,652
	漁 業	4,470
	遠洋漁業	518
	沖合漁業	2,500
	沿岸漁業	1,451
	養 殖 業	1,183
内 水 面	83	
漁 業	42	
養 殖 業	41	



		18年 (億円)
生 産 額	合 計	16,069
	海 面	15,283
	漁 業	10,787
	遠洋漁業	1,539
	沖合漁業	3,996
	沿岸漁業	5,248
	養 殖 業	4,496
内 水 面	786	
漁 業	242	
養 殖 業	544	

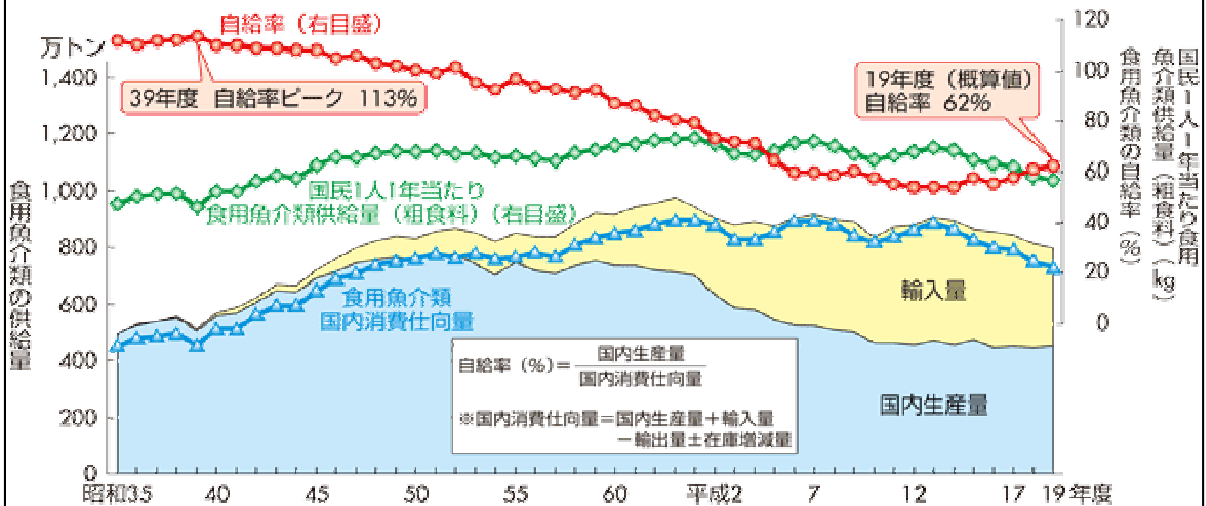
資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計年報」

注：1) 内水面漁業漁獲量は、13～15年は主要148河川28湖沼、16年以降については、主要106河川24湖沼の値である。また、内水面養殖業は、ます類、あゆ、こい及びうなぎの4魚種の収穫量である。

2) 漁業生産額は、漁業・養殖業の生産量に産地市場卸売価格を乗じて推計したものである。

3) 18年の内水面漁業生産額には、遊漁者による採捕は含まれない。

図2-3-2 食用魚介類の自給率等の推移

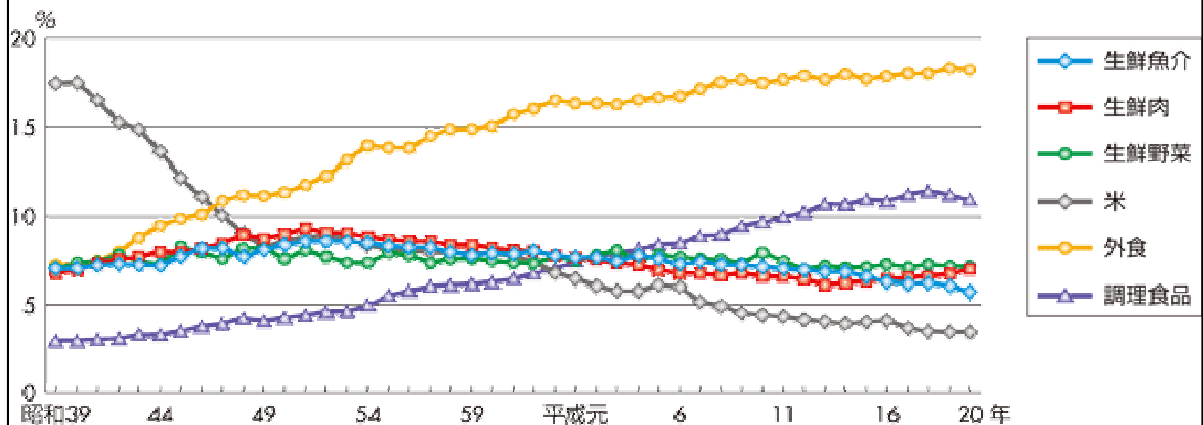


資料：農林水産省「食料需給表」

1 水産基本指標

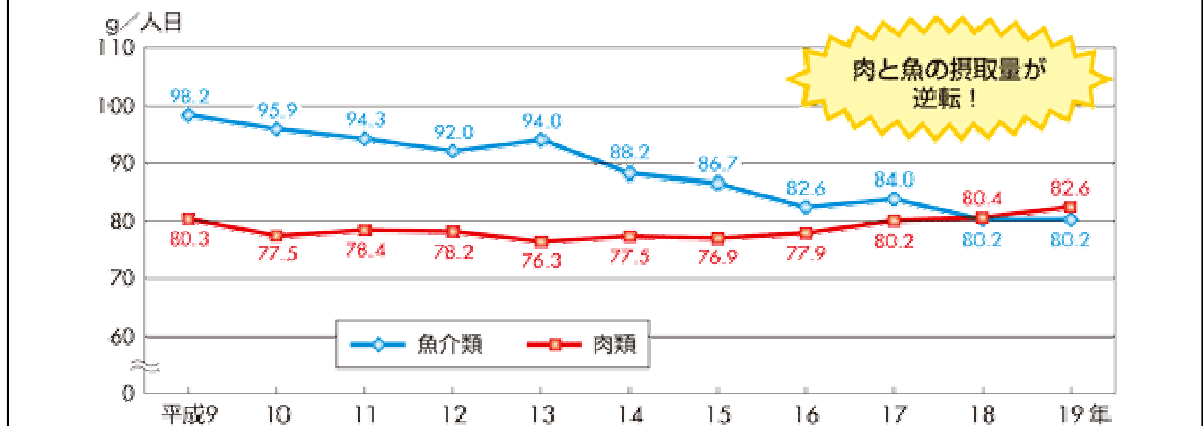
	項目	データ	備考
新経済指標	排他的経済水域	447万km ² （世界第6位）	国土面積37.8万km ² 、国土面積の約12倍の排他的経済水域
	国内総生産（GDP）	水産業は8,394億円（平成18年度）	総生産は511兆円（水産の占める割合0.2%）（平成18年度）
水産物消費動向	自給率	<ul style="list-style-type: none"> • 食用魚介類：62%（平成19年度） • 海藻：71%（〃） • 魚介類全体：53%（〃） 	<ul style="list-style-type: none"> • 自給率目標（水産基本計画、重量ベース）平成29年度 65% • 食用魚介類自給率ピーク 昭和39年度 113%
	漁業・養殖業生産量	572万トン（平成19年）	生産量ピーク 1,282万トン（昭和59年）
	漁業生産額	1兆6,539億円（平成19年）	生産額ピーク 2兆9,772億円（昭和57年）
貿易	輸入額	1兆5,373億円（平成19年）	農林水産合計8.6兆円
	輸出額	2,382億円（平成19年）	農林水産合計5,160億円
漁業経営	沿岸漁家所得	584万円（平成17年）	農家所得503万円（平成17年）
	うち漁業所得	280万円（平成17年）	うち農業所得124万円（平成17年）
	漁業依存度	47.9%（平成17年）	農業依存度24.6% 全国勤労者世帯所得 630万円
生産構造	漁業経営体数	12.1万経営体（平成18年）	昭和28年は25.2万経営体
	漁業就業者数	20.4万人（平成19年）	昭和28年は79万人
	漁業協同組合数	2,156組合（沿海地区漁協は1,159組合）（19年度末）	昭和41年2,476漁協
	漁船数	210,246隻（平成18年）	昭和43年は345,003隻
	漁港数	2,921港（平成19年）	平均すると海岸線約12kmごとに存在
	漁業集落数	6,291集落（平成15年）	平均すると海岸線約6kmごとに存在

図1-5-4 食料支出額に占める品目・形態別シェアの推移

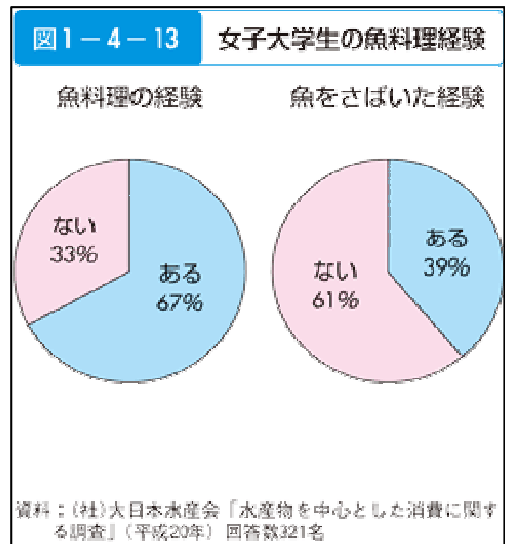
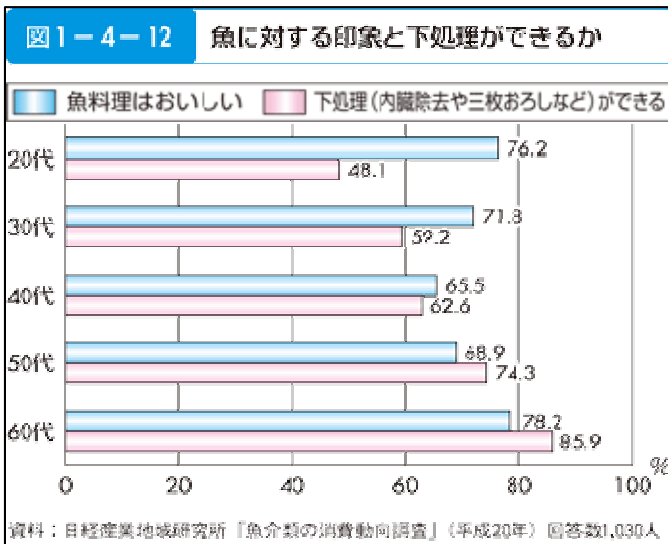


資料：総務省「家計調査年報」2人以上の世帯（農林漁家世帯を除く）を基に水産庁で作成

図1-4-1 魚介類と肉類の1人1日当たり摂取量の推移（経年変化）



資料：厚生労働省「国民栄養調査」（平成9～14年）、「国民健康・栄養調査報告」（平成15～19年）



4 漁業経営・生産構造

4-1 漁業経営体数の推移

(単位：経営体)

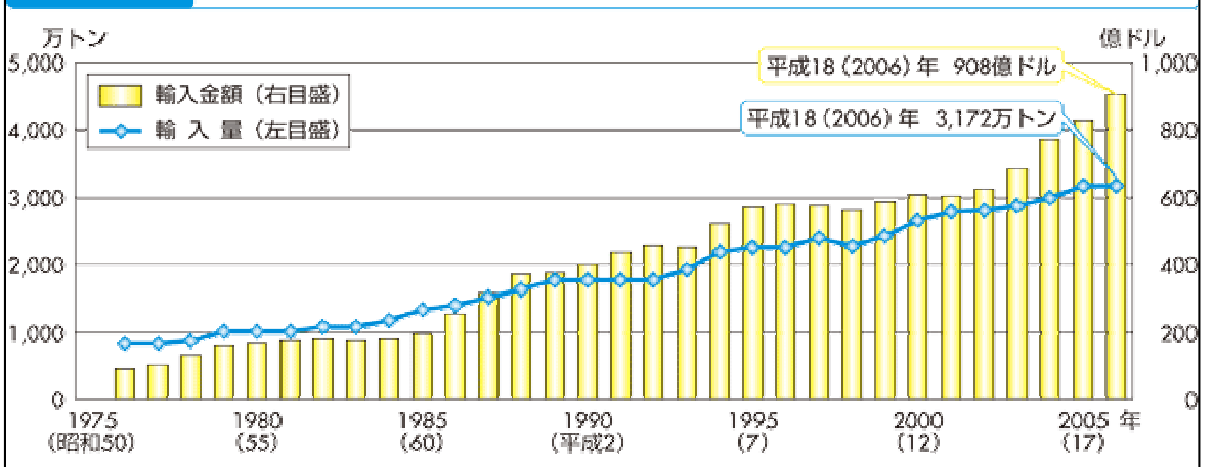
	8年	13	16	17	18	増減率 (%)	
						18/8	18/17
合計	159,897	141,509	129,877	124,716	121,489	▲ 24.0	▲ 2.6
海面漁業	129,348	116,061	106,940	102,549	100,021	▲ 22.7	▲ 2.5
海面養殖業	30,549	25,448	22,937	22,167	21,468	▲ 29.7	▲ 3.2
沿岸漁業経営体計	152,087	134,491	122,883	117,883	114,806	▲ 24.5	▲ 2.6
中小漁業経営体計	7,656	6,894	6,878	6,721	6,578	▲ 14.1	▲ 2.1
大規模漁業経営体計	154	124	116	112	105	▲ 31.8	▲ 6.3

資料：農林水産省「漁業動態統計年報」(13年まで)、「漁業・養殖業生産統計年報」(16年以降)

注：1) 漁業経営体とは、過去1年間に利潤又は生活の資を得るために、生産物を販売することを目的として、海面において水産動植物の採捕又は養殖の事業を行った世帯又は事業所をいう(ただし、過去1年間における漁業の海上従事日数が30日未満の個人経営体は除く)。

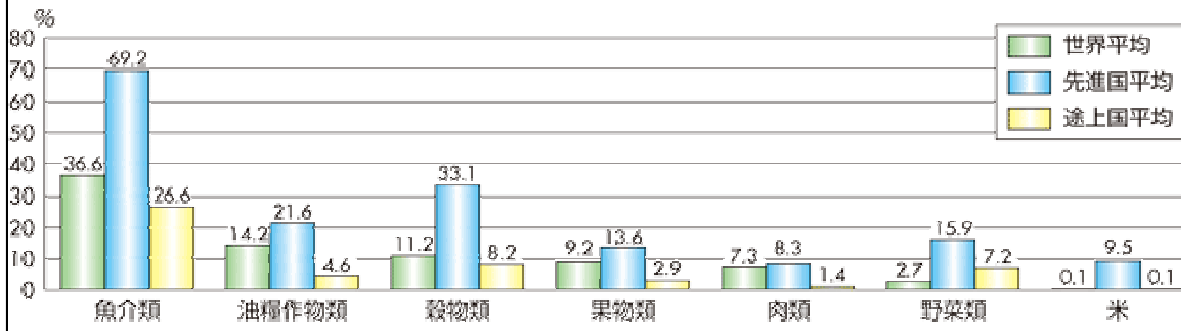
2) 沿岸漁業経営体とは、漁船非使用、無動力船、使用動力船合計総トン数10トン未満、定置網、地びき網及び海面養殖の経営体をいい、中小漁業経営体とは、使用動力船合計総トン数10トン以上1,000トン未満の経営体をいい、大規模漁業経営体とは、使用動力船合計総トン数1,000トン以上の経営体をいう。

図2-3-6 世界の水産物貿易金額・数量の推移



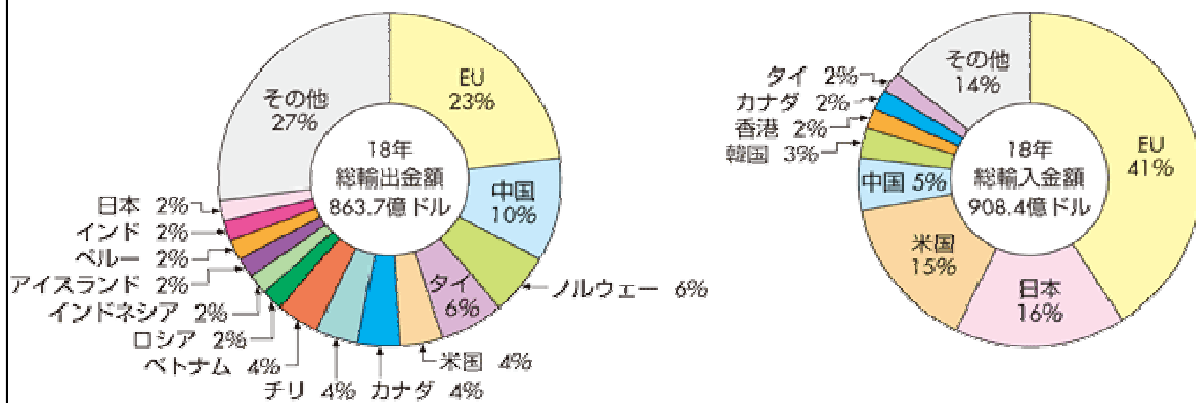
水産物チャート

図 2-3-7 生産量のうち輸出に向けられる量の品別割合（15年）



資料：FAO「FAOSTAT」に基づき水産庁で作成
注：輸出数量については、原重量ベースにより計算。

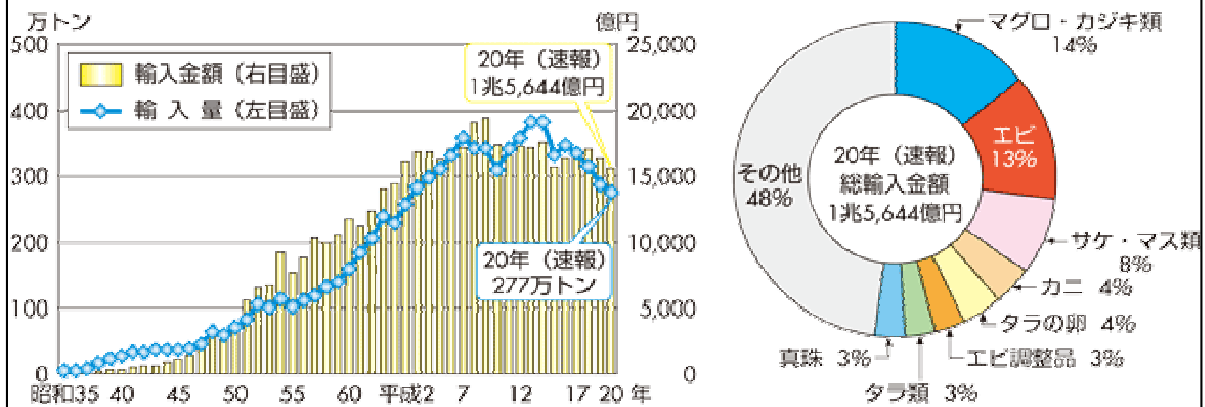
図 2-3-8 世界の水産物貿易の内訳（18年）



資料：FAO「Fishstat (Commodities production and trade 1976-2006)」

我が国の水産物輸入数量は、13年をピークとして消費の低迷等を背景に減少しており、20年には数量ベースで277万トン（対前年12万トン（4%）減）、金額ベースで1兆5,644億円（対前年728億円（4%）減）となりました。品目別にみると、輸入金額が多いマグロ・カジキ類、エビの輸入数量及び金額が減少しています。主な輸入相手国は、数量、金額ともに中国が最大であり、次いで米国、ロシアの順となっています。

図 2-3-9 我が国の水産物輸入の推移と金額内訳（20年速報）

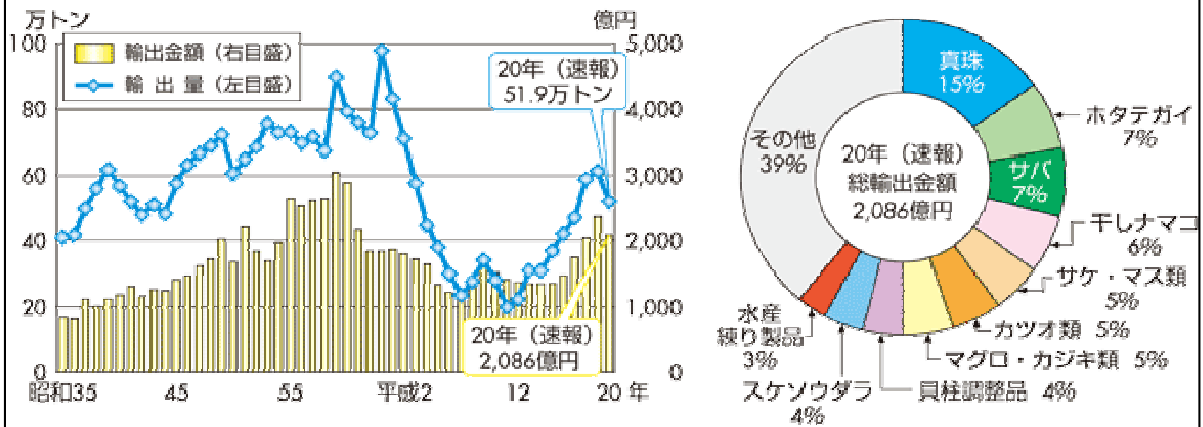


資料：財務省「貿易統計」
注：輸入数量については、製品重量ベースの数値である。

水産物チャート

我が国は、昭和50年代までは魚粉や缶詰等の輸出を行っていましたが、マイワシ資源の低迷等により輸出が減少しました。近年は、世界の水産物需要の増加等を背景に、我が国水産物の輸出が増加していましたが、20年にはサケ等の国内生産量の減少や世界的経済の低迷、円高の影響を受けて6年ぶりに減少に転じました(数量で52万トン(対前年15%減)、金額で2,086億円(対前年12%減))。主な輸出相手国としては、数量ではタイ、中国、韓国、金額では香港、米国、韓国の順となっています。

図Ⅱ-3-10 我が国の水産物輸出の推移と金額内訳 (20年速報)



資料：財務省「貿易統計」

注：輸出数量については、製品重量ベースの数値である。